

氏 名	陳 媛
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第376号
学位授与年月日	平成24年3月30日
審 査 委 員	主査 教授 織田 禎二 副査 教授 廣田 秋彦 副査 教授 齊藤 洋司

論文審査の結果の要旨

本邦の高血圧患者は約4000万人にのぼり、圧負荷が左室肥大を生じさせ、心筋の線維化、心筋リモデリングさらには心不全の原因となる。左室肥大から心不全への進展の過程のなかで、左房圧は上昇し、左房が拡大してくる。そのため左房の大きさは左室の慢性的な圧負荷また容量負荷の指標となると考えられている。申請者は、降圧薬による治療が行われ、良好な血圧コントロール（血圧<140/90 mmHg）を示す130人において、左房容積計測を含む心エコー検査の指標、またbrain natriuretic peptide (BNP) 濃度を計測し、左房容積に影響する因子、さらには心房由来の不整脈（発作性心房細動）の発生頻度について検討した。その結果、左房容積には左室重量、左室拡張末期容積、肺高血圧が関与し、BNP濃度との相関が認められた。また、左房容積の増大とともに発作性心房細動を含む心房性の不整脈の頻度が上昇することをつきとめた。これにより、申請者は、高血圧治療中の患者における左房容積を評価することは、治療の有効性の判定に有用であり、左房容積の増大を認める場合には、さらなる厳格な降圧治療を含めた治療の必要性があることを示した。